平成31年度当初予算　予算要求シート

事業区分：　重点　　**マスタープラン**：　**3つの挑戦** 低炭素　／　**施策番号** 5-1 ・ 5-3 ・ 4-1 ・　　**局・課名**：　環境局・環境エネルギー課

事業名	**スマートファクトリー・スマートオフィス導入支援事業**

事業費（千円）

平成29年度決算額	平成30年度予算額	平成31年度要求額
15,730	20,014	15,014

債務負担行為

期間	要求額（千円）
H ～ H	

事業概要

【目的】

市内の工場・事業所のエネルギー効率を改善するため、老朽化した設備をエネルギー効率の優れた設備に更新する場合の導入費用やｴﾈﾙｷﾞｰﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｻｰﾋﾞｽを利用する費用の一部を支援する。本事業を通じて、SDG7のﾀｰｹﾞｯﾄ“7.3エネルギー効率の改善率を増やす”の実現をめざす。

【内容】

〇対象者：
直近1年間のエネルギー使用量が原油換算で1,500kL未満であり、自家用電気工作物を設置し受電している（高圧電力の需給契約を締結している）市内事業所

〇募集件数：10件程度（予算の範囲内で）

〇補助額：①補助率1/3、上限額50万円
②補助率1/3、上限額100万円
③補助率1/3、上限額200万円
※業務用FCを導入する場合には、補助率1/2とする。

〇削減（補助）要件：
・デマンド監視装置等の設置等を条件に下記①～③のいずれかの要件を満たすこと。
①事業所全体の温室効果ガス削減量が1t以上、削減率が1%以上、またはデマンド値削減率が1%以上。
②事業所全体の温室効果ガス削減量が2.5t以上、削減率が2.5%以上、またはデマンド値削減率が2.5%以上。
③事業所全体の温室効果ガス削減量が5t以上、削減率が5%以上、またはデマンド値削減率が5%以上。

【今年度要求のポイント】

・本事業で補助対象となる設備には、業務用FCのように電力以外の燃料（都市ガス等）を主に消費する高性能ボイラや業務用給湯器があるが、これらを使用する事業所では燃料消費量の占める割合が大きく、特に、低圧電力の事業所ではボイラ等による燃料消費量が大部分を占めている。
・従って、こうした事業所に対しては、ボイラ等のエネルギー効率を改善することが効果的であることから、高性能ボイラ及び業務用給湯器を更新する場合に限り、低圧電力の事業所を新たに補助対象事業所とする。
・LED照明を含む高効率照明については、EMSの導入に併せて自動制御する高効率照明を含めて、完全に補助対象外とする。

主な要求内容　（単位：千円）

項目	30年度予算	31年度要求額	内容・積算等
スマートファクトリー・スマートオフィス導入支援事業	20,000	15,000	200万円×5件　100万円×5件
通信運搬費	14	14	
合計	20,014	15,014	

スケジュール（経過及び今後展開）

【経過（～30年度）】	【31年度】	【今後予定（32年度～）】
スマートファクトリー・スマートオフィス導入支援事業。	4月上旬より募集。随時、交付決定等を実施。	制度内容を見直しつつ、引き続き実施。

その他　特記事項

みんなの審査会対象外
関連事業：

整理番号　：　10　－　2　－　0110